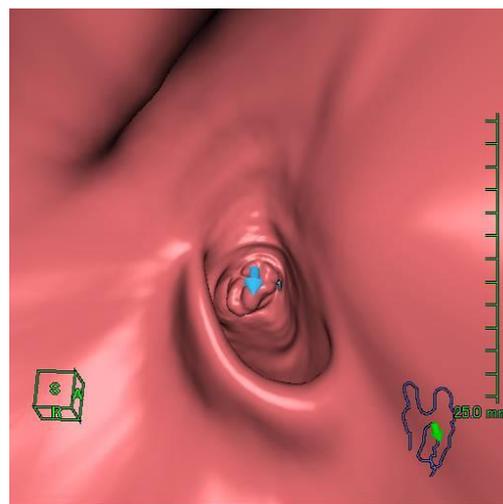
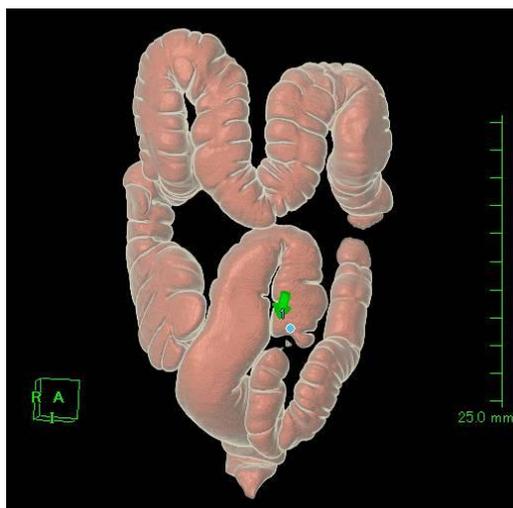


# 大腸 CT 検査とは

内視鏡を使わない CT を用いた大腸の精密検査方法です。

肛門に細いチューブを挿入して二酸化炭素ガスを大腸に注入し、大腸を拡張させた状態で、CT 撮影をおこないます。撮影データを解析し、3次元を作成するため、内視鏡を挿入せずに内視鏡検査に類似した大腸画像が得られます。

以前大腸内視鏡検査を受け、とても苦しい経験をされた方や大量の腸管洗浄薬を飲むことが苦痛だった方にはお勧めです。



## メリット

- ・検査時間が短いです。(10～15分程度)
- ・内視鏡検査に比べ多くの下剤を飲む必要がありません。
- ・痛みなどが少ないため、鎮痛剤(眠り薬)などは使用しません。
- ・専用の炭酸ガス送気装置を使用するため、大腸に穴が開くなどの偶発症(事故)は極めてまれです
- ・内視鏡検査が困難だった方でも検査が可能です。
- ・腹部撮影のため、大腸外の臓器も観察できます。

## デメリット

- ・平坦な病変や5mm以下のポリープ様の病変の検査精度は内視鏡に劣ります。
- ・組織の採取などが出来ないため、異常が検出された場合は大腸内視鏡を受ける必要があります。
- ・医療被ばくがあります
- ・重度の便秘症、大腸憩室がある方は前処置や大腸の拡張がうまくいかず、正確な検査が難しい場合があります。

大腸 CT 検査は、検査の前日から準備が必要です。また当院では、大腸 CT 検査入院(1泊2日)の取り組みもしています。ご相談・ご不明の点がありましたら、当院外科外来もしくは放射線技術部までご連絡ください。